

Dossier de Presse
**Occitanie,
terre de
rugby**



プレス資料

**オクシタニー
ラグビーの大地**

 **ccitanie**
Sud de France




Occitanie

Sud de France

南フランス オクシタニー



フランスで2番目に広い地方

13の県から成り 面積はアイルランドより広い



8つのユネスコ世界遺産

ミディ運河、ガヴァルニー圏谷/モン・ベルデュ、サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路、アルピの司教都市、コースとセヴェンヌ、ポン・デュ・ガール、歴史的城塞都市カルカソンヌ、ヴォーバン防衛施設群(ヴィルフランシュ・ド・コンフラン、モン・レイ)



2つの国立公園



1つの海洋公園



7つの地方自然公園



44のスキー場



40のオクシタニー地方が誇る景勝地

アグド=ベズナス、エグ・モルト=カマルグ・ガルドワーズ=サン・ジル、アルピ、中世のアリエージュ(フォワ=ミルボワ=モンセギュール)、先史時代のアリエージュ(ニオー=タラスコン=マダジリ)、アルマニャックの修道院とシテ、オーシュ、ミディ運河の源泉(ソレーズ、ルヴェル、サン・フェレオル)、アヴェロン城塞と渓谷(ヴィルフランシュ・ド・ルエルグ、ナジャック、サン・タントナン、ケリュス、ヴィルヌーヴ・ダヴェロン)、ミディ運河からベジエ、カルカソンヌ、セヴェンヌ、ガヴァルニー圏谷=コトレ=ポン・デスパニユ、ナヴァセル圏谷=ロデヴ、ヴェルメーユ海岸のコリウール、コンク、コルドとその中世都市、エロー渓谷=タルン渓谷、ジョント渓谷=コースとセヴェンヌ流域、グラン・フィジャック、ロットとセレの渓谷、ラ・グランド・モット、ル・グラン・モンターバン、ルルド、リュション、マルシアック、カニゴ山塊、ネウヴィエル山塊=オールとルロン流域、ロデル中央のマンド、ミヨー=ロックフォール、モワサック、ナルボンヌ、ニーム=ポン・デュ・ガール=ユゼス、ペルピニャン、ピック・デュ・ミディ、ロカマドゥールとドルドーニュ渓谷、ロデス、サン・ベルトラン・ド・コマンジュ、ヴァルカブレール、セート、トゥールーズ、ロット渓谷、カオール、サン・シルラポピー、ピュイ・レヴェック



28の温泉施設



220キロにわたる地中海の海岸線



37のレジャー港



©E. Grimaud

オクシタニーにおけるラグビーは、単なるスポーツにとどまるものではありません。それは、100年以上にわたって、村や町を、価値観や歓喜で潤してきた、地方文化そのものです。ラグビーの情熱は、食文化からライフスタイルまで、寛容のエスプリからおもてなしの心まで、お祭り、分かち合いなどの感覚に至るまで、オクシタニーのあらゆる所に浸透しています。

才能豊かなラグーマンに溢れるわがオクシタニー地方は、2019年ワールドカップ日本大会に、フランスナショナルチーム37人の中に11人もの選手を送り出します。

わが地方にはフランスのみならず欧州のプロリーグの中でも強豪クラブが揃っており、その名声により世界中の選手たちがこの地に集まってきます。一方、オクシタニー出身の選手たちへの高い需要もあります。

日本の日野剛志選手がスタッドゥ・トゥールーズン (Stade Toulousain) の一員となった一方で、オクシタニー出身の若き選手二人が静岡県磐田市のヤマハジュピロに「レンタル」されたように。

2023年のワールドカップ次回大会はフランスで開催されますが、オクシタニーの首都であるトゥールーズも、開催都市の1つです。素晴らしいラグビーの大地、オクシタニーへようこそ

キャロル・テルガ
元関係
オクシタニー・ピレネー・メディテラネ
地方圏議会議長

オクシタニーのラグビー文化	
・ オクシタニー、ラグビーの地	6
- 歴史	
- 数字で見るラグビー	
- ラグビー、すべての人に開かれたスポーツ	
- ラグビーと言葉	
・ ラグビー文化を体験できる場所	8
- 有名競技場で試合を観戦しよう	
- 競技場外での観戦場所や試合後に盛り上がる場所	
・ モードの中のラグビー：チーム運営のショップやグッズ	10
・ 有名選手たちの肖像：あの人はいま	12
・ これもラグビー：ビーチラグビー、ウォーターラグビー、ラグビー祭り、子どものスクール…	14
・ MICE：ラグビーからビジネス旅行へ	15
ラグビーと一緒にぜひ見ておきたい場所	
・ トゥールーズ周辺	16
・ モンペリエ周辺	19

フランス第4の観光地



159億

観光消費額 (ユーロ)



96,500人

観光セクターの雇用者数



10%

地方 GDP に占める割合



**国内1位
フランス人観光客数**



**国内3位
外国人観光客数**

3千万人

年間観光客数

主要市場国からの旅行者の宿泊数
(ホテル+キャンプ場利用 2016年)



**第1位
フランス地方別
観光セクター収容力**



330万

ベッド数



2,630万弱

キャンプ場等野外施設
における宿泊数
(国内第1位)



1,630万

ホテル等屋内施設
における宿泊数
(国内第4位)



**第1位
フランス国内
温泉旅行先**



約 **188,000人**

湯治者数



1/3弱

国内総施設数に占める割合

オクシタニーのラグビー文化



オクシタニー、ラグビーの地

歴史

1823年、ロンドンから80km離れた小さな町にある、ラグビー校の生徒によってイングランドで発明されたラグビーは、19世紀末にフランスに伝わり、まずパリでその愛好者ができ、それから驚くほどの熱狂とともに、フランス南西部のあらゆるところへと普及していきました。おそらくこのスポーツは、オクシタニーの人々のライフスタイルや性格に見られる、地方特有の哲学にぴたりとはまり、重要なものとなったのでしょう。その哲学とはすなわち、誇りとホスピタリティーの微妙なバランス、懇親性と陽気な精神、勇ましさと他者へのリスペクトです。

この地方でこのうえないスポーツとなったラグビーのために、オクシタニーのどこでも、それがどんな小さな村でも、毎週日曜日、全ての世代、家族、友人、そして全ての社会階級どうしが集います。競い合うだけでなく、試合の後には「トワジエム・ミタン」(第3ハーフ、試合後のお祭り)という、勝者と敗者が盃を酌み交わし、忘れられない瞬間を共有するお祭りの場がついてきます。

数字で見るラグビー: 完全にラグビーな地方!

7万人以上の登録選手(フランス全体で32万8千人—2018年統計)が約400のクラブに分かれて所属するオクシタニーは、15人制ラグビーのフランスで1番の地方リーグです。また、毎年、2万人の若い選手が、全域に数100あるラグビースクールのどこかで、ラグビーを始めています。

ご存知でしたか?

1. オクシタニーでは、父から子にラグビーが伝えられます。ラグーマンの家では、今なお続く伝統として、男の子はゆりかごの中でボールを与えられるのです!
2. フランスXV(ラグビーフランス代表)の現在の監督であるジャック・ブリュネルは、オクシタニーの出身です(トゥールーズ近郊のオーシュ Auch 生まれ)。

フランスで最もスポーツが盛んな地方(77.6%以上の住民がスポーツ活動を実践:2018年統計)であるオクシタニーにおいて、ラグビーは、サッカー、テニスとともに、最も競技人口の多いスポーツのトップ3を形成しています。

トップ14(フランス選手権1部)所属の3つのチームと、プロD2(同選手権2部)の5つのチームがあるオクシタニーは、フランスで最も多くトップクラスのプロクラブが存在する地方となっています。

Top14 (2019-2020シーズン) のチーム

スタッドゥ・トゥールーザン
Stade toulousain
カストル・オリムピック
Castres Olympique
モンペリエ・エロー・リュグビー
Montpellier Hérault Rugby

Pro D2 (2019-2020シーズン) のチーム

ユサップ(ペルピニャン)
USAP (Perpignan)
ASベジエ・エロー
AS Béziers - Hérault
USカルカソンヌ
US Carcassonne
USモントーバン
US Montauban
コロミエ・リュグビー
Colomiers Rugby

ラグビー: 全ての人に開かれたスポーツ

ラグーマンに見られるオープンマインドで寛容な精神は、多くのオクシタニーの人が持ち合わせるものでもあります。そんな精神のおかげで、このスポーツは誰もが分け隔てなく参加できる傾向があります。

女子ラグビー 地方の3つのチームが、エリート・アン(1部リーグ)で、他の3つがエリート・ドゥ(2部リーグ)でプレーしています。現在スタッドゥ・トゥールーザン所属のガエル・エルメ(Gaëlle Hermet)は、6ネーションズ2018年大会の時、女子フランス代表の元キャプテンを務めました。

これらのチームが良い結果を出していること、そしてメディア露出が増えたことで、登録選手数が激増し、既に80以上の女子チームが地方に存在しています。

エリート・アンのチーム (2019-2020シーズン)

モンペリエ・エロー・リュグビー
Montpellier Hérault Rugby
スタッドゥ・トゥールーザン
Stade toulousain
ブランチャック・リュグビー
Blagnac Rugby

エリート・ドゥのチーム (2019-2020シーズン)

ユサップ(ペルピニャン)
USAP (Perpignan)
RCナルボンヌ
RC Narbonne
スタード・テーエルベ(タルブ)
Stado TPR (Tarbes)



13人制ラグビー: オクシタニーのもう1つのラグビー

15人制に比べて少ないものの、1チーム13人で行われる13人制ラグビーは、フランスで5万人がプレーしていますが、特に多いのがオクシタニーで、中でもトゥールーズ、カルカソンヌ、そしてペルピニャン周辺で盛んです。

13人制ラグビーは、イングランド、オーストラリア、ニュージーランドで盛んに行われています。フランスからは、2チームのみが、アングロサクソンのチームと肩を並べ、国際大会で活躍していますが、2つともオクシタニーのチームです。ペルピニャンのドラゴン・カタラン(Dragons Catalans de Perpignan)と、トゥールーズ・オリムピック・トレーズ(Toulouse Olympique XIII)です。



www.to13.com



www.catalansdragons.com/en



ご存知でしたか?

モンペリエ・エロー・リュグビー女子クラブは、3年間(2017-2018-2019)フランス選手権を制していますが、この2年間は、スタッドゥ・トゥールーザンとの間で、100%オクシタニー同士の決勝戦となりました。



最年少からの混成練習(少女・少年) お子さんの長期休みの間、遊びながらラグビーに触れさせたいと思いませんか?オクシタニー地方では、子どもたちのために、7歳から参加できるラグビー教室があります。
information@tourisme-occitanie.fr



ゲイ・フレンドリーなチーム、トゥールーズのトゥウィン (Touwin) とモンペリエのロス・ヴァレンツ (Los Valentis) この二つのチームはラグビーを通じ、性的嗜好の違いを受け入れることを説いています。これらのクラブは、2年に1度、フランスとヨーロッパのゲイ・フレンドリーチームが参加する、「レ・ソヴァリー」(Les Ovalies) と名付けられた大会を開催しています。
www.montpelliergay.com/los-valents-en

車椅子ラグビー(ウィルチェアーラグビー)は、15人制ラグビーから派生した、歩行機能障害を持つ人たちのための、パラスポーツです。車椅子を用いる競技で、特にトゥールーズとモンペリエで行われています。

ラグビーと言葉

“ラグビーは、世界のどこよりもピレネーの麓に、ふさわしき内なる炎の大地を見つけた”

レイモン・アベリオ (Raymond ABELLIO)、作家

“オクシタニーにとって、ワールドカップを迎え入れることは、誇りであり、名誉であるに違いない。なぜならここでは、全てがラグビーで呼吸するのだから”
ベルナル・ラポルト (Bernard LAPORTE) 元フランス代表監督、元スポーツ大臣、現フランスラグビー協会会長

ラグビー文化を体験できる場所

有名競技場で試合を観戦しよう

トゥールーズ (Toulouse) エルネスト・ヴァロン (Ernest Wallon) フランスで最もタイトルを獲得(フランス選手権 20回、ヨーロッパ選手権 4回)している地元チーム スタッドゥ・トゥールーズの試合観戦は、信じられないような体験です。

www.stadetoulousain.fr/ernest-wallon

モンペリエ (Montpellier) ジェジュエル・スタジアム (GGL Stadium、旧スタッドゥ・イヴ・デュ・マノワール Stade Yves du Manoir)
www.ggl-stadium.com

カストル (Castres) スタッドゥ・ピエール・ファーブル (Stade Pierre Fabre)

www.tourisme-castres.fr

ペルピニャン (Perpignan) スタッドゥ・エメ・ジラル (Stade Aimé Giral)

USAP クラブと直接連絡を取れば、内部も含めたスタジアムのグループツアーが可能です(infos@usap.fr)。また、インバウンド専門旅行社のエヴァス=ジョ・ルシヨン・ヴォワイヤージュ (Evaz-jo Roussillon Voyages) は、ペルピニャンの文化観光、ガストロノミー、ワインツーリズム、ホーム試合時の競技場でのVIP観戦を含むパッケージツアー「マジック・ウィークエンド・カタラン」(les « magic week-ends catalans »)を提供しています。お問い合わせ: evaz-jo@orange.fr



ベジエ (Béziers) スタッドゥ・ラウル・バリエール (Stade Raoul Barrière) (ASBH: Association Sportive Biterroise Hérault) は、フランスで3番目に多くのタイトルを獲得してきたラグビークラブです(フランス選手権優勝 11回)。ベジエで試合がある時の雰囲気は格別です。フランスでも数少ない、ピッチに面したスタジアムのレストラン、ブラスリー「コテ・ヴェスティエール」(la Brasserie «Côté Vestiaire») で、食事をしながらの観戦も可能です。

http://brasseriecotevestiaire.fr

モンターバン (Montauban) スタッドゥ・ドゥ・サピアク (Stade de Sapiac)

http://usmsapiac.fr

ナルボンヌ (Narbonne) スタッドゥ・カセイエ (Stade Cassayet) 70年代の強豪クラブ、RCナルボンヌ・メディテラネ (RC Narbonne Méditerranée) のクラブハウスには、その歴史的な選手たちの写真が飾られ、昔の姿を知ることができます。

www.narbonne-tourisme.com

競技場外での観戦場所や試合後に盛り上がりえる場所

「ラグビーは、前後半の2つではなく、3つのハーフにわたってプレーされるのだ:前半;熱意、間;勇敢とその後;友愛」

ルネ・クラボス (René CRABOS) 元フランス代表

大きな試合の時には、オクシタニー地方の主要なラグビー都市では、トゥールーズのキャピトル広場 (Place du Capitole)、モンペリエの市庁舎広場 (Parvis de l'Hôtel de Ville) などに、大型スクリーンが設置され、安全なパブリックビューイング体験を、存分に楽しめます。ラグビー愛好家の中には、店内で試合の放送を流す、やはり特有の雰囲気を持つバーを好む人もいます。

おすすめの店:

トゥールーズ

市内中心地:

- ル・アカ・コーナー (Le Haka Corner) - 47 boulevard Lascrosses

コンパン・カファレリ地区 (quartier Compans-Caffarelli) に店を構える、この本物のラグビー・バー・ミュージアムの共同経営者の1人は、元ニュージーランド代表のバイロン・ケラハー (Byron Kelleher) です。

ここは、トゥールーズの「トワジエム・ミタン」(第3ハーフ、試合後のお祭り)天国で、額に収められたシャツのコレクションで際立っています(元イングランド代表ジョニー・ウィルキンソン、数多くの代表チーム、そしてなんとといってもオールブラックスの歴史を刻んだ選手たちのシャツ)。

- ザ・ダヌ (The Danu) - 9 rue du pont Guilhemery

元アイルランド代表トレヴァー・ブレナンが開いたザ・ダヌは、8つのスクリーンが設置された、トゥールーズのナンバーワンのスポーツバーです。時々、お店でスタッドゥ・トゥールーズの選手に会えるたりもします。

こんな場所も...

- ル・ロンドン・タウン・パブ (Le London Town Pub) - 14 Rue des prêtres

トゥールーズのダイナミックな中心地にあるパブ、ロンドン・タウンでは、イングランドの伝統的なビールを飲み、3つあるスクリーンでサッカーやラグビーのライブ中継を観ることができます。

- ル・ミニステール (Le Ministère) - 14 Rue Peyrolières さらには、サンピエール広場 (la Place St-Pierre) にある全てのバーは、学生たちで、特に試合の日の夜、盛り上がります。

- ル・ルージュ・エ・ノワール (Le Rouge et Noir) -3 Rue du Pont Saint Pierre リュ・デュ・ボン・サンピエール

サン・シプリアン地区 (quartier Saint-Cyprien) にある、この有名なバーの名前は、地元チームであるトゥールーズのカラーである赤と黒から付けられています。店内は、世界のあらゆるラグビークラブのオブジェが飾られていて、シャツ、盾、フラッグ、マフラー、ペナントが、壁や天井一面を埋め尽くしています。

www.le-meilleur-quartier.fr/le-rouge-et-noir



人生で一度は経験してみたい! キャピトル広場でのブレニユスの盾お披露目式

ブレニユスの盾 (Le Bouclier de Brennus) とは、フランス選手権優勝チームが毎年6月半ばに手にする盾のこと。トゥールーズの地元チーム、スタッドゥ・トゥールーズがこの盾を獲得すると、街中がチームカラーの赤と黒に染まります。勝利の翌日、選手たちが列をなして街を歩き、市庁舎のバルコニーから広場で歓喜に沸く群衆に向けて盾を掲げると、ボルテージが最高潮に達します。





スタッドゥ・エルネスト・ヴァロン (stade Ernest Wallon) 付近

-ラ・ブラスリー・デュ・スタッドゥ・トゥールーザン (La Brasserie du Stade toulousain) - 114 rue des troènes

エレガントで熱く、トゥールーズのラグビーに捧げられ、スタジアムから至近距離で試合を楽しむには、理想的な場所です。また、貸し切り、もしくはサロンの1室を予約して、ビジネスパーティー、カクテルパーティー、テーマパーティー、団体や企業の会食、ミーティングやプライベートのレセプションなどに使うことも可能です。

ナルボンヌ:

ル・ピュブ・イルランデ・オブライアンズ (Le Pub Irlandais O' Briens) - 9 Boulevard Général de Gaulle

オーストラリア出身のRCナルボンヌの元選手、アントニー・ヒルが経営するお店。

オクシタニーの他の場所:

-モンペリエのラ・システラ (La Chistera) は、フランス代表のフランソワ・トゥランデックが開いたお店です。

www.la-chistera.com

-ペルピニャン:ラレーナ・バー(L'Arena Bar) - Cours Clémenceau/レ・アル・ヴォバン (Les Halles Vauban)

Quai Vauban/ル・バー・ラ・ロトンドゥ (Le Bar La Rotonde) 8 Place Jean Payra

モードの中のラグビー: チーム運営のショップ、グッズ、ジャージのコレクション

各クラブのショップ

ラグビー体験の最後には、必ずラグビーグッズの購入が伴うものです。オクシタニー地方の全てのプロクラブは、サポーターの、チームに対する愛着の気持ちが長く続くよう、専門のショップをオープンしています。ポロシャツ、短パン、靴、マフラー、フラッグなど、完璧なサポーターになるためのすべてのグッズを見つけることができます。

トゥールーズ

スタッドゥ・トゥールーザンは、クラブのカラーである赤と黒を誇り高く掲げることができるよう、3つのショップを開いています。

・トゥールーズ・ブランヤック国際空港 (l'Aéroport International Toulouse Blagnac)

・スタッドゥ・エルネスト・ヴァロン (Stade Ernest Wallon)

・市中心部のショップ (75 rue Alsace Lorraine)

<https://boutique.stadetoulousain.fr>



©2010kumamoto pref.kumamon



モンペリエのクラブのショップは、ジェジェエル・スタジアム (GGL stadium) にあります。

boutique.montpellier-rugby.com

カストルのクラブのショップ 19 Rue Frédéric Thomas

<https://castres-olympique.com/boutique/>

ペルピニャンのクラブのユサップは、スタッドゥ・エメ・ジラル (Stade Aimé Giral) と街の中心部 (Quai Vauban) に、2つのショップを開いています。 <https://fr.usap.fr/les-boutiques-de-lusap> また、13人制のクラブ、ドラゴン・カタラン (Dragons Catalans)



のシャツは、ギャラリー・ラファイエット・デパート (Galeries Lafayette) とスタッドゥ・ジルベール・ブリュチュス (Stade Gilbert Brutus) でお求め頂けます。

ベジエでは、地元クラブ ASBH のショップ (rue du 4 Septembre) で、クラブのマスコットであり、少なくとも4世紀 (!) から市のトーマム動物である「カムルー」 (camelou ラクダの方言) を見つけることができます。 www.asbh.net/boutique

モンターバン:こちらも地元クラブのショップあり (188 Rue Léo Lagrange) <http://shop.usmsapiac.fr>

カルカソンヌ:地元クラブのショップ (32 rue Antoine Marty)

または試合日の競技場内のショップ www.uscarcassonne.com/boutique

ラグビーにちなんだ作品を作る職人たち

高級木製ラグビーボール

木製家具職人の名工、ピエール・アルマンゴー (Pierre Armengaud) は、あらゆる種類の希少な木材を使用しますが、その大半は、持続可能な使用目的の素材です。2004年、ピエール・アルマンゴーは、「木材のラグビーボール」と、カスタム可能なスポーツロフイーを創り出すことで、他とは一線を画するようになりました。オード県 (Aude) ベルベッシュ (Belpech) のムーラン・ドゥ・ラ・ジャルジ (Moulin de la Jalousie) にある彼のアトリエは、見学可能です。この分野における、フランスで唯一の著名な会社です。

www.lesballonsderugbyenbois.com

美食家の方には

トゥールーズ近郊のショコラトリーでは、本物以上に本物らしい、実寸大のラグビーボールチョコレートを提供しています! 無

料の実演会の際は、チョコレート作りを体験することもできます。

www.chocolaterie-larra.fr

カスタムTシャツ

ナルボンヌのブランド「キャンズ・ウットゥ」 (15 août) の創業者、ステファニー・マリネス (Stéphanie Marinnesse) は、ラグビーをテーマにしたオリジナルな服を展開していますが、とりわけ注目は、「ラグビーマンの妻」 (ファム・ドゥ・リュグビーマン femme de rugbyman) というTシャツコレクションです。

www.15aoutofficiel.com

ブランド名オリフィルの限定シリーズ、「2019 ワールドカップ日本」 (Coupe du Monde 2019 au Japon)

ラグビーワールドカップを機に、モンペリエを拠点とするオリフィルが、あなたを日出づる国ニッポンへの旅にいざないます。日本文化にインスパイアされたビジュアルコードを使った、ラグビーにちなんだ商品です。

Tシャツに記される日本語、ポロの背中にあしらわれたドラゴン、シャツの襟の桜模様、スウェットシャツの胸のワッペンに富士山、フリースの背中に刺繍された日本のニックネームなど……。

www.oliphil.com/japan-2019.html





新奇な世界：キャバレーがラグビーの世界と出会う時

トゥールーズの入口にある有名キャバレー、ムーラン・デ・ロシュ (Moulin des Roches) で、レビューショーのリーダーと、フェザードレスを纏ったダンサーたちが、スタジアムの神のような選手たちと出会いました！村のラグビーマンたちを誇りに思う、バー・レストラン“ノエ” (Noé) の元オーナー、アレックス・ボレ (Alex Borret) が、そこで忘れられないワジエム・ミタンに居合わせます。ラグビーを愛してやまないアレックスは、1000枚近くのラグビーシャツを集めました。彼は2009年になくなりませんが、父の思い出が永続することを願い、その子どもたちが寄贈したヨーロッパ随一のコレクションが、ムーラン・デ・ロシュで展示されています。

<https://moulinidesroches.net/cabaret-mauzac>

有名選手たちの肖像：あの人はいま

オクシタニー出身、あるいは当地に定住したプロラグビーの元チャンピオンたちの転身は、しばしば驚くべきものがあります。彼らに会い、彼らの新しい人生を知り、彼らの“ラグビー”にまつわる最高の思い出を共有することは、楯球への共通したパッションを深める方法でもあります。

スパイクから皿へ

ジル・ベルゾン (Gilles BELZON) の“ベベル” (Bébelle) を始め、ナルボンヌではジル・ブルギニョン (Gilles BOURGUIGNON) やフランク・トゥルネール (Franck TOURNAIRE)、モンペリエではガルティエ (GALLETIER) 一族、パリとトゥールーズとモンテシュに店を持つクリスチアン・コンスタン (Christian CONSTANT) など、多くの元選手が、レストランを開店しています。

シェ・ベベル (Chez Bébelle)

フランスで最も美しい屋内市場の中心にある、愛される家族の物語

市場はナルボンヌの縮図そのもの。色、匂い、興奮...、この市場は街と住民の性質をそのまま反映しています。ジルとその家族 (三代にわたるラグビーマン) が、ここに開店したグリルバーは、ラグビーシャツで飾られ、市場の商品だけを使い、客の目の前で切って直ぐに焼くお店です。営業中、ベベルでは、あなたの注文をメガホンを使って市場の肉屋に伝えるパフォーマンスを繰り返します。それから、ベベル側が、肉屋から投げ込まれるラップに包まれた肉を、まるでラグビーの第3列の選手のように、空中でキャッチするのです！この変わったコンセプトで、ジルは、モンペリエの元選手だった、クリアン・ガルティエとそのいとこのギヨム・ガルティエらと手を組み、モンペリエのアル・デュ・レズ (Halles du Lez) に2号店を展開しましたが、もう1店、よりクラシック



ご存知でしたか？

2019年、パリ地方のクラブ、ラシング92 (Racing 92) は、競技場の外で選手たちが着るデニム地のズボンの製造を、フランス最古のジーンズメーカー アトリエ・チュフリー (L'Atelier Tuffery) に依頼しました。アトリエは1892年創業ですが、その年は、第1回のフランス選手権が開催された年でもあり、優勝したのはラシング92だったのです！

www.ateliertuffery.com/collaboration-jean-denim-made-in-france-racing-92-jacky-lorenzetti/

なレストラン、“ラ・メゾン・ベベル” (La Maison Bébelle) も、ナルボンヌの市場の前面にある修道院跡の建物にオープンしています。
<https://www.chez-bebelle.fr>

フランク・トゥルネール (Franck TOURNAIRE) はナルボンヌでプレーした選手で、現在カルカソンヌ (Carcassonne) の監督を務めていますが、同時に、ナルボンヌのレストラン“シェ・ジョー” (Chez Jo) のオーナーでもあります。このレストランは、誰からも称賛される美味しい肉を出す、本物志向の店です。<https://chez-jo.com/>

クリスチアン・コンスタン (Christian CONSTANT) は、パリのミシュランの星付きレストラン“ル・ヴィオロン・ダングル” (Le Violon d'Ingres) のシェフですが、US モントーパンの元選手でもあります。今や6つのレストランの責任者であり、うち2店がオクシタニーにあります。彼は、よくこう言います。「料理とは、ラグビーのチームのようなもの。1人のシェフとその他ではないのです。前に進むためには、皆が必要なのです」。あなたもきっとトゥールーズのキャピトル広場 (Place du Capitole) にあるル・ビバン (Le Bibent) の壮麗さに驚嘆し、モンテシュMontechのビストロ・コンスタン (Bistrot Constant) の落ち着いた雰囲気を入ることでしょう。

ジル・ブルギニョン (Gilles BOURGUIGNON) フランス XV から“オクシタニーの宝”へ

1980年代のナルボンヌのクラブの栄冠を築いたジル・ブルギニョン (Gilles BOURGUIGNON) は、現在、ナルボンヌとその周辺で展開するパン・菓子製造業の素晴らしい経営者です。“トレゾール・ドクシタニー” (Trésors d'Occitanie) の名で商品化された一連のクッキー、特にオクシタニーの十字架 (オクシタニー地方のエンブレム) の形をした“クロスタ” (crosetas) は、中東にまで輸出されています。
<https://lefournildegilles.fr/produit/las-crosetas/>

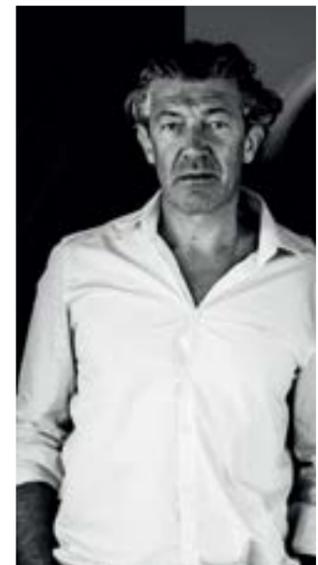
楯球から葡萄へ

ジェラルール・ベルトラン (Gérard BERTRAND)、葡萄栽培とワインツーリズムでの素晴らしい成功

1965年1月27日ナルボンヌに生まれ、同地でラグビーのデビューを果たし、パリのスタッドゥ・フランスのキャプテンとしてスポーツのキャリアを終えたジェラルール・ベルトランは、父の死を契機に家族経営の葡萄栽培の世界に入り、1995年以来、その世界に身をささげています。ジェラルール・ベルトランは、その名を冠した葡萄栽培の一大グループを興し、フランスと世界にラングドック産のワインを広げていますが、そのワインは、150ヶ国に送り届けられています。30年間で、その生産地は60から750ヘクタールを超えるようになりましたが、その3分の2がバイオダイナミック農法で耕作されています。今日、彼は活動を多様化させ、海と葡萄畑の間にある、そのホテル複合施設とガストロノミック・レストランを活用し、ワインツーリズムを開始していますが、毎年夏には、ジャズフェスティバルも開催しています。

www.chateau-hospitalet.com/en
www.gerard-bertrand.com

ヤニック・ジョジオン (Yannick JAUZION) はガヤック (Gaillac) に住む元トゥールーズの選手。ワイン業界に身を転じ、2019年、アリガンサ (Aligança) というワインに自分の名を入れて商品化しています。一方、ロデス、カストル、モンペリエでプレーしたセバスチアン・ガルティエ (Sébastien GALTIER) は、マス・デ・コリブリ (Mas des Colibris) というドメインで、素晴らしいピオ・ワインを製造しています。
www.trinquefougasse.com/domaine/mas-des-colibris



ご存知でしたか？

シャトー・ロスピタレ (Château l'Hospitalet) の2017年産グラン・ヴァン AOP ラ・クラペ (La Clape) は、世界で最も権威あるワインコンクール、インターナショナル・ワイン・チャレンジ (International Wine Challenge : IWC) で、最優秀赤ワイン賞を受賞しました。このコンクールは毎年、ヴィンテージワインと、その生産者を表彰しています。それにより、ジェラルール・ベルトランは、2019年 IWC チャンピオン・レッド・ワイン賞を受賞しています。





他には、タルン県 (Tarn) のギャック (Gaillac) で育成を受け、アルビ (Albi) でプレーし、今日ではワンマンショーで笑いを取る優れたコメディアンとして活躍中の、ヴァンサン・モスカート (Vincent MOSCATO) のように、アーティストティックなキャリアに転じた選手もいます。

トゥールーズ出身のジャン＝ピエール・リーヴ (Jean-Pierre RIVES) は、モニュメント彫刻を制作していますが、その作品の1つは、自身がオーナーで、夏の間だけトゥールーズでオープンするレストラン「ラ・セントラル」(la Centrale) に展示されています。

また、ベジエ生まれで、トゥールーズでプレーしたセドリック・スレットゥ (Cédric SOULETTE) は、フランスのエンブレムにあしらわれる雄鶏をモデルとした芸術作品を制作しています。www.stanart.fr

スタッドゥ・フランセでプレーしたオマール・アサン (Omar HASAN) は、オペラのバリトン歌手としてのキャリアをスタートし、カフェ・タンゴ (Café Tango) という三重奏団で活動しています。

ベジエ近郊ピュイセルギエ (Puisserguier) 出身、エキセントリックなキャラクターを持つダニエル・エレロ (Daniel HERRERO) は、ラグビー関連の10冊以上の本を執筆していますが、講演者、コーチ、企業アドバイザーとしても活動しています。また、国際人権連盟のアンバサダーでもあります。彼の肖像壁画が、出身の村の入口にあります。



最後に紹介するのは、政治の世界に進んだ元選手たちで、オクシタニー地方副議長で、海水浴場で知られるグリュイサン (Gruissan) の市長のディディエ・コドルニウ (Didier CODORNIU) や、元スポーツ大臣で現在フランスラグビー協会会長のベルナル・ラポルト (Bernard LAPORTE) らがいます。

これもラグビー：ビーチラグビー、ウォーターラグビーにラグビー祭り…

競技場で観戦する大きな試合の他に、友人たちや家族の中など、「ラグビー」の文化は、数多くの活動やイベントに姿を変えて、至る所に存在しています。オクシタニーでは、このスポーツを魅力的で親しみやすいものにし、大衆化するために、あらゆることが利用されます。ビーチラグビーやウォーターラグビーが、娯楽ラグビーの形で発達し、ラグビーフェスティバルが、毎年トゥールーズで開催されています。



ビーチラグビー

ビーチラグビーは、15人制と13人制ラグビーから生まれた団体競技で、ビーチ、少なくとも砂の上で行われます。1チーム5人の2チーム対戦します。この競技は、より遊びの要素が強く、より参加しやすく、ルールがとても柔軟なので、ラグビー経験のあるなしに関わらず、全ての参加者のレベルに合わせる事ができます。

地中海の全ての海岸で行われていますが、とりわけヴァルラス・プラージュ (Valras-Plage) とオード県 (Aude) のグリュイサン (Gruissan) で行われていますが、毎年7月には有名な大会が開催されています。

グリュイサン・ビーチラグビーは、「プチ・フランス」(星の王子様) のニックネームを持つ、元フランス代表でグリュイサン市長のディディエ・コドルニウが力を入れて開催しています。この大会は、若年層、男女混成、女性、全てのチームに開かれ、あらゆる形、あらゆるレベルで、砂の上で競われ、ラグビーの価値を際立たせています。

<https://gruissan-mediterranee.com/gruissan-beach-rugby/>



ル・フェストヴァル (Le Fest' oval : 楕円球フェスティバル : ラグビーの祭典)

年に一度、6月、フランス選手権トップ・キャトルズ (Top14) 決勝の際、トゥールーズのキャピトル広場 (la Place du Capitole) は、2023年ラグビーワールドカップを開催する、誇り高さ「ラグビーの首都」を象徴するこのスポーツの、パッションと文化を分かち合うため、ラグビー場に変化します。

ウォーターラグビー：世界唯一の大会

縦40m横35mの、水上に浮いたプラットフォーム上で行われる、遊びのラグビーの一種であるウォーターラグビーは、1チーム5人の2チームが20分間対戦するのですが、トライを取る時は…水に飛び込まなければなりません。その雰囲気は折り紙付き！大会は、2019年9月13日から15日にトゥールーズのガロンヌ川 (Garonne) で行われましたが、セドリック・エマンス (Cédric Heymans)、エミール・ンタマック (Emile N'tamack)、イマノル・アリノルドキ (Imanol Harinordoquy)、クリストフ・ドミニシ (Christophe Dominici)、ディミトリ・ヤシュヴィリ (Dimitri Yachivili)、ヴァンサン・クレール (Vincent Clerc)、ヤニック・ジョジョン (Yannick Jauzion) といった、フランスラグビー界のかつての大物選手が集まりました。

<http://tournoides6stations.com/ete/en/>

MICE : ラグビーからビジネス旅行へ

強豪チームのスタジアムには、招待旅行やセミナーのような、ビジネス出張に関連したイベントを受け入れるのに完璧な設備を持つ部屋が備えられています。スタッドゥ・トゥールーズのブラスリーや、私的に目的で使える他のスペースを備えるトゥールーズのエルネスト・ヴァロン (Stade Ernest Wallon) や、2019年にエスパス・ヴァロレム (l'espace Vallorem) をオープンしたモンターバン・サピアク競技場 (Stade de Sapiac) や、ベジエの競技場などがあります。

<http://usmsapiac.fr>

www.mice-occitanie.fr/beziers-congres/beziers



スタッドゥ・トゥールーズは更に、企業の世界に門戸を開き、クラブのスポーツスタッフによる、「チームビルディング」(グループのパフォーマンスを目的とした、チームの団結や精神の強化) のセッションを開催しています。

www.mice-occitanie.com/stade-toulousain-de-rugby/toulouse

ジェラルド・ベルトラン (Gérard BERTRAND、事前の記事参照) は、ナルボンヌのシャトー・ロスピタレ (Château l'Hospitalet) で、ビジネス出張に関連したイベントを受け入れています。

www.chateau-hospitalet.com/en/your-events

ラグビーと共に 見ておきたい観光地



トゥールーズ周辺

バラ色の都市と呼ばれるトゥールーズは、オクシタニー地方の主都であり、ヨーロッパの航空ならびに航空宇宙産業の発祥地です(エアバス、アリアンスペース)。歩行者天国になったその豊かな歴史的中心地区を散策しながら、かの有名なキャピトル広場(Place du Capitole)、サンセルナン教会(la Basilique Saint-Sernin)、ジャコバン修道院(Couvent des Jacobins)を見て回りましょう。



機械仕掛けの架空の動物を制作するカンパニー「ラ・マシーヌ」による展示ホール、「ラ・アール・ド・ラ・マシーヌ」(La Halle de la Machine)を訪ればそのリアルさに圧倒され、宇宙博物館アエロスコピア(Musée Aéroscopia)や、トゥールーズを拠点に航空郵便のパイロットたちが活躍した頃の歴史を扱う博物館「ランヴォル・デ・ピオニエ」(l'Envol des pionniers)、あるいはエアバス(A320 - A380)のライン生産を見学することで、宇宙航空産業の歴史を追体験することができるでしょう。

www.toulouse-visit.com
www.halledelamachine.fr/en

どこに泊る?

-17世紀の歴史的建造物、ラ・クール・デ・コンシュル(la Cour des Consuls) 5つ星

www.cite-hotels.com/en/etablissements/hotel-cour-des-consuls.html

- 飛行士サンテグジュペリが住んでいたホテル・デュ・グラン・バルコン(l' Hôtel du Grand Balcon) 5つ星

<https://grandbalconhotel.com/en/>

トゥールーズから1時間圏内

歴史的城塞都市カルカソンヌ(La Cité médiévale de Carcassonne)は、ユネスコの世界遺産に文化遺産として登



録されている、外すことのできない観光地です。7月14日(フランス建国記念日)の花火は、世界で最も美しい花火の1つです。近くにある、「ラングドックのヴェルサイユ」(le Versailles du Languedoc)と呼ばれるペノティエ城(château de Pennautier)は、フランスのワインツーリズムの表彰を受けたメゾン・ロルジュリル(Maison Lorgeril)のワインの試飲会もあり、欠かせません。

<http://ja.tourisme-carcassonne.fr>

<https://www.lorgeril.wine/en/history-and-architecture/>

どこに泊る?

要塞の中にあるホテル・ドゥ・ラ・シテ(l' Hôtel de la Cité) 5つ星

<https://www.cite-hotels.com/en/etablissements/hotel-de-la-cite.html>

アルビ(Albi)は、レンガ造りの建物として世界最大のサント・セシル大聖堂(la Cathédrale Ste-Cécile)と、当地で1864年に生まれた「ベルエポック」の著名な画家、ロートレックにオマージュを捧げたトゥールーズ・ロートレック美術館(le Musée Toulouse Lautrec)とで知られています。

www.albi-tourisme.fr/en

カストル(Castres)も主要なラグビーの街ですが、ゴヤ美術館(Musée Goya)で知られ、川沿いの古く美しい家並みが、イタリアのフィレンツェのような雰囲気を出しています。

www.tourisme-castres.fr/index.php?lang=en

モンターバン(Montauban)には、有名な2人の芸術家、画家のアングル(Ingres)と彫刻家のブルデル(Bourdelle)の作品を所蔵した美術館があります。モンターバンの近くには、フランスのサンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路の一部として登録される、素晴らしいロマネスク様式のモワサック修道院(l'abbatiale de Moissac)がありますが、ここを観光し忘れてはいけません。

トゥールーズから2時間以内

ロープウェイでピック・デュ・ミディ(Pic du Midi)の頂上に昇ると、中空に突き出したスリル溢れる見晴台と、3000m近い高さからピレネーの壮大なパノラマの景観を味わうことができます。





ピレネー国立公園 (Le Parc National des Pyrénées) と、そのロマンチックな光景は、この保護された場所を好む人々を喜ばせます。とりわけ、自然の驚異、ガヴァルニー圏谷 (Cirque de Gavarnie) に感銘を受けることでしょう。フランスの主要な巡礼地であるルルド (Lourdes) の聖地で、夜のろうそく行列に参加し、スピリチュアルな体験をすることもできます。
<https://en.lourdes-infotourisme.com>

どこに泊る?

ピック・デュ・ミディの頂上には、ヨーロッパで1番標高が高いホテルがあります。
<http://picdumidi.com/?lang=en>

カオール (Cahors) とロットの谷 (la Vallée du Lot): ロット川1日周遊で、フランスで最も美しい谷を眺め、日本人観光客が好むフランスで最も美しい村の1つ、サン・シル・ラポピー (St-Cirq-Lapopie) まで続く、この地方らしい城や村に出会うことができます。

www.holidays-cahors.co.uk

ワインがお好きな方は、ロットの谷で最も評価される葡萄畑の1つで、ワインツーリズムの賞を受賞している、シャトー・ドゥ・



メルキュエス (Château de Mercuès) での試飲会で、カオール・マルベック (Cahors-Malbec) の有名な黒ワインを味わうことができます。

どこに泊る?

NEW ヴィギエ・デュ・ロワ (Viguière du Roy, 4つ星) は、フィジャック (Figeac) の新しいラグジュアリーホテルで、16世紀に建設された宮殿の跡にできました (2019年7月オープン)。
<https://www.accorhotels.com/ja/hotel-B5V9-hotel-mercure-figeac-viguiere-du-roy-opening-july-2019/index.shtml>

シャトー・ドゥ・メルキュエス (Château de Mercuès, 4つ星) は、ロットの谷を見下ろす位置にできたルレ・エ・シャトーに所属するホテルです。

<https://chateaudemercues.com/en/>

ガスコニュ (La Gascogne)、ダルタニャンの銃士の故郷
 “フランスのトスカニー”と呼ばれ、海と丘、魅力的な谷には、アルマニャック (Armagnac, フランス最古の蒸留酒) の葡萄畑や、格付けされたシャトーや村が広がり、鴨の飼育 (フォアグラ) がおこなわれています。



どこに泊る?

NEW モナステール・サン・モン (Monastère de Saint Mont, 4つ星) は葡萄畑の中に位置する修道院跡にできた壮麗なホテルで、つい最近オープンしました。
<https://lemonasteredesaintmont.com>

国際ジャズフェスティバルで知られるマルシアック (Marcillac) 村に、5つ星ホテルのヴィラ・トスカーヌ (la Villa Toscane) があります。

<http://lavillatoscane-marcillac.fr>

トゥールーズの北東ロデズ (Rodez) は、生存する画家の中で作品に最も高値が付けられているというフランス人画家ピエール・スーラージュの故郷です。ここにあるスーラージュ美術館 (Musée Soulages) の豊かさに魅了されることでしょう。さらに数キロ離れると、ピエール・スーラージュが制作した、コンクのサント・フォア大修道院 (l'Abbaye Ste-Foy de Conques) のステンドグラスを見ることができます。2019年は、スーラージュ生誕100周年です!

<https://musee-soulages.rodezagglo.fr/en>



モンペリエ周辺

モンペリエは、その大胆な建築物と、歩行者天国となっている旧市街中心部とのコントラストが、驚きを与えてくれます。ペルー公園 (Jardin du Peyrou) からコメディエー広場 (la Place de la Comédie) まで、17、18世紀の特徴的な建築物が溢れる旧市街を歩いて歩くことは、外せません。素晴らしいファブル美術館 (Musée Fabre) と、新しくできた現代美術館のモンペリエ・コンタンポラン (le MoCo) を訪れたり、日本人建築家の藤本壮介が設計した未来的な塔ラルブル・ブラン (l'Arbre blanc) を見に行きましょう。
<https://www.montpellier-france.jp>

どこに泊る?

NEW ともに5つ星のホテル・プラージュ・パラス (Hôtel Plage Palace) と、オテル・プラージュ・アール・エ・エモション (Hôtel Plage Art & Emotions) は、地中海に面し、幸福な時間を提供してくれます。
<https://plagepalace.com/en/>
<https://laplage-artetemotions.com/en/>



モンペリエから1時間以内

ニーム (Nîmes) とポン・デュ・ガール (Pont du Gard): ローマ時代を受け継ぐ2000年の歴史

“フランスのローマ”と呼ばれるニームは、恐らく世界で最も保存状態の良い、美しいローマの円形闘技場が、あなたを魅了することでしょう。ローマ文化博物館 (Musée de la Romanité) で古代ローマ文明についての知識を深め、その屋上から、旧市街の壮麗なパノラマの風景を楽しむことができます。ニームの数キロ先にあるポン・デュ・





ガール (Pont du Gard) は、ローマ時代の素晴らしい建造物で、フランスで最も訪問者数の多い観光地です。

どこに泊る?

最近再オープンした伝説のホテル、オテル・アンペラートル (Hôtel Imperator) には、過去、アヴァ・ガードナーや、アーネスト・ヘミングウェイのような著名人が宿泊しています。

www.maison-albar-hotels-l-imperator.com/en/

ベジエとナルボンヌ これら偉大なラグビーの歴史を持つ2つの都市は、思いもよらない贅沢な経験を訪問者に提供しています。ベジエには、A Béziers, dont la サン・ナゼール大聖堂 (Cathédrale Saint-Nazaire) が堂々と街に聳え立ち、ミディ運河 (canal du Midi) が流れ、フォンスランヌ閘門 (ECLuses de Fonsérannes) があります。

www.beziers-in-mediterranee.com/en



どこに泊る?

ドメヌ・タルブリエシュ (Domaine Tarbouriech) は、トー湖 (Etang de Thau) 沿いの葡萄畑の中にある、ラグジュアリーなホテルです。そこには、牡蠣の恵みを利用したユニークで革新的なケアを行う“オストレオセラピー” (牡蠣セラピー) のセンターがあります!

www.domaine-tarbouriech.com

ナルボンヌの大司教宮殿 (le Palais Episcopal) は、フランスにおいて、アヴィニョン教皇庁 (le Palais des Papes d'Avignon) に次ぐ美しさと威厳を備えています。12世紀の傑作であり、美しい森に隠れたフォンフロワ修道院 (l'Abbaye de Fontfroide) と、塩田に囲まれた漁師の村グリュイサン (Gruissan) も忘れてはいけません。

www.narbonne-tourisme.com



モンペリエから2時間以内

ペルピニャン スペイン付近の誇り高きカタロニアの都市は、特にラグビーの試合の日、あなたを熱烈に歓迎してくれることでしょう。町の特別な雰囲気味わうには、旧市街と街の至宝であるカスティエ門 (le Castillet)、大聖堂、マジョルク王宮 (le palais des rois de Majorque) を訪れてみましょう。その後はアーティストたちに愛された昔ながらの漁港で、その美しさがあなたをきっと魅了するコリウール (Collioure) に行き、アル・ヴォバン (Halles Vauban) で夕食として“タバス” (カタロニアの郷土料理) を試してみるとよいでしょう。

www.perpignan-tourisme.com/gb

www.visitcollioure.co.uk

どこに泊る?

葡萄畑のど真ん中にある4つ星ホテルのドメヌ・リブラッシュ (Domaine Riberach) では、ワインの貯蔵室をラグジュアリーな部屋に泊るという斬新な体験を味わい、これまたワイナリーを改築した、ミシュランの星付きのレストランで食事を楽しむことができます。

www.riberach.com/en/

ミヨール高架橋 (Le Viaduc de Millau)、ロックフォールの貯蔵室 (les caves de Roquefort)、タルン渓谷 (les gorges du Tarn)* フランス土木工学の誇りであるミヨール高架橋 (le viaduc de Millau) は、その突出したサイズ (主柱はエッフェル塔よりも高い!) で、圧倒的な印象を与えています。橋が聳え立つミヨール (Millau) には、クチュールの一大ブランド (シャネル) が買い取った高級手袋の製造工房があります。

そこから、自然の貯蔵室で熟成する“フランスチーズの王様”ロックフォール (Roquefort) の試食に行き、その後は、フランスで最も印象的な渓谷の1つ、タルン渓谷 (les gorges du Tarn) の美しさに魅せられましょう。

*これらは、その特別な景観から、コース (Causses) とセヴァンヌ (Cévennes) の世界遺産に含まれています。





-  ユネスコ世界遺産登録地と、サン・チアゴ・デ・コンポステーラ巡礼路の上にある史跡
-  サン・チアゴ・デ・コンポステーラ巡礼路
-  ラグビーのプロクラブチーム



Contacts

広報担当

Mélanie frayssinet
Emmanuelle VIALA
Patrick FONTANEL
Birgitte REIMERS

presse@crtoccitanie.fr

オクシタニー地方観光局



tourisme-occitanie.com

SITE DE MONTPELLIER (SIÈGE)
64, rue Alcyone
34000 MONTPELLIER

SITE DE TOULOUSE
15, rue Rivals - CS 78543
31685 Toulouse Cedex 6



#TourismeOccitanie

